

3 高等部

日 時：令和 5 年 9 月 2 5 日（月）

時 間：9：40～10：30

場 所：高等部 1 年 1 組教室

指導者：T 1 板垣由起子

1 単元名「たてとく祭の招待状を書こう」

2 本時の目標（対象生徒）

- （1）一文を視写することができる。（知・技）
- （2）招待するにふさわしい項目を考えて選ぶことができる。（思・判・表等）
- （3）課題に粘り強く取り組もうとする。（学・人等）

3 単元での生徒の実態

対象生徒	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
T・S	・難しいと思うことや興味が湧かないこと、初めてのことにはなかなか気が向かない。しかし、ほめられたり認められたり、個別で説明したりすると取り組むことができる。 ・一度学習したことはよく覚えている。 ・文字を書くことはできるが、得意ではない。	☆自分から単語を考えて発表したり、声を出して読んだり、当てはまるものを選んだり、お話を聞いたりする。 ☆カルタの読み札をきいて、自分からとろうとする。 ☆何個かの選択肢の中から当てはまるものを選んで選ぶとする。 ☆メッセージの 1 部分を見ながら自分で書こうとする。

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

・取り組みやすい課題から行うようにする。努力を認める言葉がけをするようにする。 ・視覚的支援をする。 ・考えて選択する場面を設定する。

5 本時の展開

時間	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
9：40	1 始めの挨拶		
9：41	2 授業の流れを知る		
9：43	3 ハーゲンダッツ・カルタをする。	・事前にどんな札があるか予告し、みんなで読んでみる。	・チーム戦にする。 ・正解の札を複数枚準備する。 ・とった札は数学で使っているシートを使って枚数を数えられるようにする。 ・発声はゆっくり大きな声で行うようにする。
9：50	4 言葉を探して読んでみる	・“さ”で始まる言葉を一人一つ出すようにする。 ・生徒から出された言葉は教師と一緒に発声する。	・単語を一つ読むごとに、文字を 1 つ増やしていく。 ・本時は下書きの時間であり、やり直しがきくことを伝える。

10:00	5 たてとく祭の招待状を作る	・招待状に必要な項目を確認する。(いつ・どこで・何があるか、など) ・家の人へのメッセージを選び、視写する。	・薄く枠を書き、その中に記入する。
(10:20)	(6 読み聞かせ)	(時間があれば読み聞かせを行う。)	
10:30	6 終わりの挨拶		

6 単元を通した生徒の様子・変容

以前は初めてのことに對し、最初から「分からない。」と取り組むのを拒んでいるところがあった。しかし、日ごろから行っていることを始めにもってこることで、流れに乗って招待状書きに取り組むことができた。また、日ごろから行っている学習にも、自分から発言するなどの積極性が見られるようになってきた。

日 時：令和5年7月10日（月）

時 間：10：35～12：15

場 所：縫製室

指導者：斎藤 春季

1 単元名「販売会に向けて製品を作ろうⅠ」

2 本時の目標（対象生徒）

- （1）道具を安全に使用して製品を作ることができる。（知・技）
- （2）手順を自分で確認したり、教師に相談したりして取り組むことができる。（思・判・表等）
- （3）時間いっぱい集中して取り組もうとすることができる。（学・人等）

3 単元での生徒の実態

対象生徒	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
T・S	・これまでは刺し子に取り組み、印をよく見て丁寧に縫うことができた。糸通し、玉結び、玉止めができるようになった。 ・模様が縫い終わるたびに、「一つ終わりました。」と報告することができる。 ・初めてのことに抵抗があり、ミシンで縫う仕事を始めは拒否したが、予告をすると誘い掛けを受け入れて取り組むことができた。 ・製品作りに興味があり、自分が刺し子をした布をバッグの飾りにしたいと考えている。 ・仲間の様子が気になることがある。	☆時間いっぱい黙々と作業をすることができる。 ☆ミシンを使って製品作りに取り組むことができる。

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

・たとく祭に向けて、好きな柄の刺し子に取り組み、それをバッグの飾りにすることで意欲を高める。 ・ミシンを使った製品作りは初めてなので、ミシンに慣れることができるように、手順が分かりやすいあづま袋を作る。また、前もってバッグを作ることを予告しておき、気持ちを高めておく。 ・手順を確かめながら作業ができるように、タブレット端末に動画を用意する。 ・反省会で、頑張ったことや出来栄を発表する機会を設定し、教師や仲間から称賛されることで次回への意欲に繋げる。

5 本時の展開

時間	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
10：35	1 日誌の記入	・日誌に記入できるように、今日の作業内容をホワイトボードに記入しておく。	
10：40	2 始めの挨拶		
	3 活動内容の確認		
	3 作業Ⅰ あづま袋	・好きな布の柄を選ぶようにする。 ・ミシンで縫う工程が安全にできるように適宜見守る。 ・水分補給や、トイレを済ませるように声掛けをする。	☆手順を確かめながら作業ができるように、タブレット端末に動画を用意する。 ☆上手にできているところを称賛する。
11：30	4 休憩		

1 1 : 4 0	5 作業Ⅱ	・引き続き、集中して行えるように声掛けをする。	
1 2 : 1 5	6 片付け 終わりのあいさつ		

6 単元を通した生徒の様子・変容

- ・始めは、直線縫いの刺し子布巾以外の製品作りを拒否することがあったが、予告をし、気持ちの準備をする時間を確保することで、果物やパン、麻の葉模様の刺し子に取り組むことができた。
- ・同様にあづま袋作りも、予告をすることで、大変意欲的に取り組むことができた。手順を動画にして提示したが、本人はじっくりと見ることなく進めようとするので、道具の使い方や手順について指示したり確認したりすることが多かった。特に裁ちばさみは初めて使ったので、刃先で切って布がギザギザになっていた。繰り返し使う中で、刃を大きく広げて切るように確認していく。
- ・工程が不安なときに質問したり、一つ工程が終わるごとに報告をしたりすることができたが、今後は報告の仕方について指導していきたい。

高等部 1 年グループまとめ	対象生徒：T・S
研究メンバー	板垣由起子、庄司直人、斎藤春季、早坂奏

1 主体的に活動するために行った支援と手立ての工夫 ・やったことのない活動や「できそうにない」と思ったことに対する拒否反応が強かったので、取り組みたい活動に対して余裕をもって事前に伝えるようにした。 ・興味をもってもらえるように、新しい製品作りに取り組んだ。 ・タブレット端末を活用し、動画で手順を確認できるようにした。 ・「仕事のコミュニケーション」を毎時間言うようにした。
--



2 対象生徒の学びがどのように変わったか？	
良かった点 ・年度初めに比べて、「できない。」と言うことが少なくなってきた。 ・周りを手本にして活動に取り組むことができるようになってきた。 ・作業学習での報告の声のが大きくなった。また、「できました。」と丁寧な言葉遣いで言えるようになった。 ・登校時に挨拶ができることが少しずつ増えてきた。	課題点 ・作業学習で、質問するときの丁寧な言葉遣い。 ・教師や友達に対する適切な口調や言い回し。きつい言葉遣いになってしまうことがある。 ・挨拶ができる場面とできない場面がある。



3 最終年度「主体的に活動する姿」に向け、工夫していきたい点、生かしていきたい点、試してみたい点 ・繰り返し同じ流れで活動することで、自信をもって取り組むことができるようにする。 ・ロールプレイを通して、様々な場面での話し方や言葉遣いを学習する。 ・作業学習への意欲を大切にし、お客様に喜んでもらえるような製品作りができるように言葉掛けをしていく。また、本人の作ってみたいという気持ちにできるだけ応えられるように製品作りを工夫する。

日 時：令和5年7月18日（火）

時 間：9：40～10：30

場 所：高等部1年1組教室

指導者：T1 早坂 奏

T2 板垣 由起子

1 単元名 「身の回りの数を数えよう」

2 単元の全体目標

- (1) 整数の意味と表し方や四則の関係について理解するとともに、整数の計算についての意味や性質について理解し、それらを計算することができる。 (知識及び技能)
- (2) 数とその表現や数量の関係に着目し、目的に合った表現方法を用いて計算の仕方を考察するとともに、数量の関係を簡潔に、また一般的に表現することができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- (3) 数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、よりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 指導にあたって（☆は研究テーマに関わる内容）

(1) 生徒について

- ・高等部1年生男子5名の学習グループである。
- ・1名は具体物を操作して、教師の指差しや言葉掛けを受けて数えることができる。
- ・1名は具体物やイラストの数を数えたり、10程度までの数唱をしたりすることができる。
- ・2名は具体物やイラストの数を数えたり、具体物やイラストを用いて10程度までの足し算をしたりすることができる。
- ・1名は簡単な二桁同士の足し算の筆算や引き算をすることができる。
- ・5名とも学習意欲は高い。

☆具体物を操作する活動や、イラストなどが多いプリントに取り組む活動では苦手意識が低く、「できました」の声が増えたり、自分から次の課題に取り組んだりする姿が見られることが多かった。

対象生徒	期待される主体的に活動する姿（・単元における実態 ☆主体的に活動する具体的な姿）
K・M	・数字のみの計算は得意である一方、文章問題や現実には即した形式の問題には少し苦手意識がある。 ・自分にとって簡単な問題や得意な分野には自分から取り組もうとするが、少しでも難しいと感じたり、分からないことがあったりすると急に意欲を失い、投げやりな取り組みになったり、全く取り組もうとしなくなることがある。まずは簡単な問題から取り組み徐々に難易度を上げたり、はじめに教師と解き方や考え方を確認してから活動に取り組んだりするようにしている。 ☆自分から活動の報告をしたり、次の活動を聞いてきたりする。 ☆少し難しい問題にも取り組もうとする。
	単元の個別目標（対象生徒）
	・2桁同士の筆算や簡単な掛け算をすることができる。 (知識及び技能) ・場面に合わせて計算方法を選んだり、考えたりして解くことができる。 (思考力、判断力、表現力等) ・数量や計算について学んだことを、他の学習や日常生活に生かそうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

(2) 教材観

- ・具体物やブロック等の半具体物は、操作が容易で、手を動かしながら数えることができ、生徒が感覚的に数を理解するのに適している。
- ・本単元では、ブロックや具体物を使い「数を数える」という活動を通して、数の概念をつかんだり、四則計算の仕組みを理解するきっかけを作ったりしたい。

(3) 指導観

- ・数の概念形成や四則計算の仕組みを理解するうえで、数が抽象的であるという点が理解を難しくしている。具体物を使ったゲーム形式は、数を楽しく身近なものにし、数に関する活動への意欲を高めるのに有効であり、そこからブロックといった半具体物の操作につなげていくことで、抽象的な数を理解したり、操作したりする感覚を自然につかめるようにしたい。

主体的に活動するための支援と手立ての工夫
・課題の難易度は、簡単な課題から小さく段階を踏んで、少しずつ難しい問題に取り組めるようにする。 ・繰り返しでは、簡単な問題や同じ活動を繰り返し、「できた」経験を積むことで、少し難しい問題にも取り組もうという意欲を育てる。 ・興味関心では、ゲーム形式や具体物・半具体物の操作など、手先や体を動かす活動を取り入れることで、集中力が途切れず授業に関心を持ち続けられるようにする。
※本時での支援と手立ての工夫は展開内に表記

4 指導計画 (5時間 本時3/5)

時間	主な学習内容
1	・ボウリングゲームをして、倒れたピンの数を数える。 ・ブロックを使って10個のかたまりをつくる。
2～3	・ボウリングゲームをして、倒れたピンの数を数える。 ・数えたピンの合計を、ブロックを使って数える。
4～5	・ブロックを使って四則の問題を解く。

5 本 時

(1) 本時の全体目標

- ①数を数えたり、数えたものの数を足したりすることができる。 (知識及び技能)
- ②数の概念をつかんだり、仕組みを考えながら計算したりすることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- ③活動を理解して主体的に取り組んだり、教えあったりしようとする。 (学びに向かう力、人間性等)

(2) 本時の個別目標

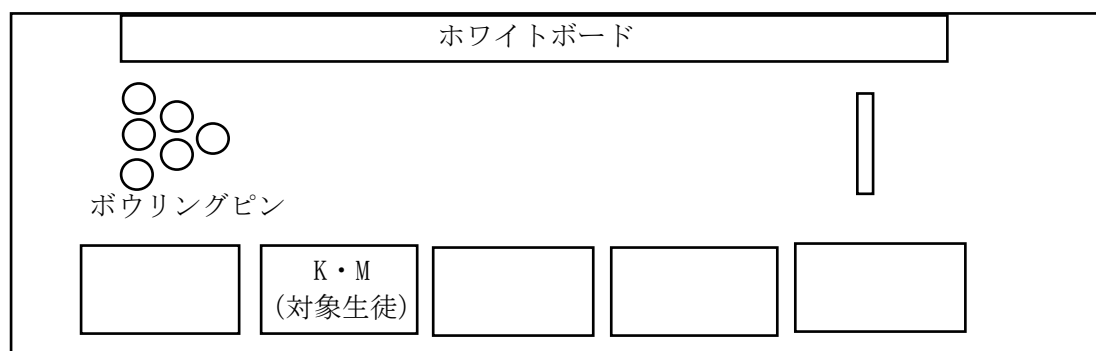
生徒	本時の目標
K・M	・物の数を正しく数えたり、数えたものを使って計算したりすることができる。 (知識及び技能) ・数を数えることで、簡単な四則計算の仕組み理解しながら解くことができる。 (思考力、判断力、表現力等) ・難しい問題にもめげずに取り組もうとすることができる。 (学びに向かう力、人間性等)

(3) 展 開

時刻	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
9:40	1 始まりの挨拶	・見通しをもてるように今日の活動を確認する。	
9:42	2 ブロック分け	・生徒の実態に合わせて使用するマスの変える。	

9 : 5 0	3 ボウリングゲーム • 数のまとまりを作る。 • ブロックの数を増やしていく。	• ブロックでまとまりを作ったら、分かりやすいように袋に入れる。 • 数字とマスが書かれたシートにブロックを数えながら置いて、数のまとまりを作る。 • 1個ずつ→2個ずつ→3個ずつと、各マスに入れるブロックの数を増やしていく。 • ボウリングをして倒したピンの数を数える。 • 2回行い、自分が倒したピンの数の合計を、ブロックとシートを使って求める。 • 自分が倒したピンの数が分かりやすいように、倒したピンと同じ数のブロックを渡す。	※指差しや手本を見せるなどして、自分で真似しながらできるようにする。 ☆飽きずに取り組むことができるように、各マスに入れるブロックの数を増やして課題の難易度を徐々に上げていく。 ☆集中して活動に参加できるように、ゲーム形式で体を動かす活動を取り入れる。
10 : 15	4 プリント	• 仲間分けのプリントや、点つなぎ、イラストの数を数えるプリントを解く。 • 難しいときは、ブロックを使って数える。 • 好きなもののイラストなどを使って、意欲的に活動できるようにする。	※プリントで分からないところがあったら、質問したり、終わったら報告したりすることを確認してから始める。
10 : 25	5 終わりの挨拶		

(4) 場の設定



(5) 単元を通した生徒の様子・変容

- かけ算に以前は苦手意識があり、取り組もうとしなかったが、少しずつ自信を付けて取り組むようになった。
- 課題が難しいと、取り組みへのやる気をなくす姿が見られていたが、挑戦しようとする姿が少しずつみられてきている。
- ゲーム形式や体を動かす活動は楽しそうに取り組んでいた。座学は時間を短くすると集中できる。
- 課題が簡単すぎても意欲をなくすことがある（取り組みはする）。適切な難易度の課題設定や、日常生活場面・他の教科や単元との関連性を提示して、活動に目的意識を与えると主体的に取り組みやすいようだった。

高等部 作業学習 クラフト班 指導案

日 時：令和5年9月12日（火）

時 間：10：35～11：25

場 所：クラフト室、高等部学習室

指導者：T1 庄司 直人 T2 清野 英美

T3 片山 愛子 T4 荒井 貴子

1 単元名 「販売会に向けて製品を作ろうⅠ」

2 単元の全体目標

- (1) 必要な道具の準備や後片付けを行ったり、正しい手順で作業を進めたりすることができる。
(知識及び技能)
- (2) 安全に気を付けながら作業に取り組み、適切な言葉で挨拶や報告をすることができる。
(思考力・判断力・表現力等)
- (3) 販売会に向けて目標をもち、仲間と協力して作業をすることができる。
(学びに向かう力、人間性等)

3 指導にあたって

(1) 生徒について

- ・本作業班は、1年生3名、2年生3名、3年生4名の計10名で、うち重複学級の生徒は2名である。それ以外の8名のうち、昨年度から継続してクラフト班に所属している生徒は1名で残りの7名は初めてのクラフト班である。特に紙すき作業については、全員経験がない状態からのスタートとなっている。

活動場所が今年度から2年2組教室から学習室に変更になったことで、作業の動線が若干変わった部分もあるが、作業のしやすさだけでなく、仕事内容や道具の配置、生徒の心理的での安定等を考えながら、2つの部屋を有効に活用していく。

2, 3年生は昨年度もたてとく祭での校内販売会や、イオン東根店での校外販売会を経験しており、見通しをもって取り組むことができ、「製品をたくさん買ってもらうために頑張る。」と意欲的である。1年生についても、学部や学年での事前学習を経て、販売会を楽しみと捉えている。

- ・手先が器用な生徒もいるが、全体の班編制の段階で、クラフト班には、細かい作業が苦手、できる作業に限られる生徒が多くなる傾向にある。重複学級の生徒は、午前中のみ参加となっており、午後は指導教員の人数の都合もあり、全員学習室での作業となることが多い。長時間継続して作業に取り組むことが難しかったり、安全面を考慮し個別に対応する必要があったりする生徒もいたり、実態は様々である。
- ・紙すき作業は、水場や道具使用の都合上、クラフト室で行うが、車椅子の生徒の動線も考え、他の作業は学習室で行っている。材料となる牛乳パックのフィルムをはがしたり、乾燥後、裁断したりする作業、ミキサー掛けのための計量作業など、実際に紙をすくこと以外にも仕事を設定することで、生徒の特性や能力に合わせて役割を分担することが可能となっている。特にパルプのシュレッダー掛けは、簡単な作業ではあるが、機械を操作しての作業であり、作業の量が結果として見えやすいことから、手先が器用でなく、また長時間集中して作業に取り組むことが苦手な生徒でも、一定時間集中して作業に取り組むことができる。
- ・紙バンドを使ったミニかごやストラップなどの小物の製作は、編み方を覚えて一人で取り組むことのできる生徒は少数で、ほとんどは途中、編み方を確認したり点検したりしながらの作業となる。製品の出来映えや材料の確保の都合を考えると、繰り返し練習し、何度も作り直すことは実際には難しい。紙バンドでの製作以外の作業が困難で、なおかつ、個別に教師がついて行わなければならない生徒もいるため、仕事の分担には工夫が必要である。
- ・言葉で伝えることが困難な生徒が多く、また、大きな声ではきはきと聞き取りやすくなるほとんどの生徒が難しく、最も課題とすべき点である。作業中は、教師に「できました。」と言葉で伝えたり、自分なりに発声やジェスチャーで伝えたりできるよう、繰り返し練習していく必要がある。また、生徒同士での報告やコミュニケーションを取る機会も多く設定する。他

の生徒の出来栄を称賛したり、協力に感謝したりすることで、特に、このようなコミュニケーションがうまくできた様子を全体場で採り上げ、意識付けを図っていく。

対象生徒	・主体的に活動する姿に対する実態 ☆期待される主体的に活動する姿
K・M	・特定の生徒の様子が気になり、遠くから声を掛けたり、指示をしたりして自分の作業がおろそかになることがある。しかし、ミシン掛けなど自信がある作業や、好きな製品作りなどの工程のときは、一定時間（15分程度）集中して作業に取り組む姿が見られる。 ・単調な工程が続くと居眠りをしたり、失敗が続くと投げやりになったりして、ミスをしても報告しないことがある。 ・経験したことのある作業でも、周りの様子が気になり集中が途切れると次の工程を忘れてしまい、何度も教師に確認したり、必要以上に時間が掛かったりすることがある。工程表が手元にあることで、集中力が途切れてしまっても次にやるべきことが分かり、再度取り組む様子が見られる。 ・教師全員に完成した製品を見せて称賛されたときは、安心した表情になり、次の活動に自信をもって取り組む様子がある。また、他の生徒の出来栄を見て称賛の言葉掛けをすることがある。 ☆自分で工程を確認しながら作業を進める。 ☆一定時間（15分程度）自分の作業に集中して取り組むことができる。
	単元の個別目標（対象生徒）
	（1）紙すきの手順を覚えて、道具の準備や後片付けも含め、自分で取り組むことができる。（知識及び技能） （2）必要な挨拶や報告、相談をしながら活動をすることができる。 （思考力、判断力、表現力等） （3）より良い製品を作ろうという意欲をもち、仲間と協力しながら作業に取り組もうとする。（学びに向かう力、人間性等）

（2）教材観

- ・本単元では「たてとく祭」での販売を目標に、それぞれの生徒が、紙すきの材料加工と実際の紙すき作業から、すいた紙を使った製品作りまでの一連の作業と並行して、紙バンドやPPバンドを使った製品作りも行っている。紙すきですいた紙を使った製品については、パルプを洗濯ばさみで挟んで干したり、細かく切ったり、ミキサーのスイッチを押したりと行った作業も含め、全ての生徒が何らかの形で作業工程に携わっているため、「みんなで作り上げた」という意識をもちやすい。一方で、紙バンド製品については、ストラップなど、短時間で多くの個数を作ることのできるものもあるが、かごやバッグのように、ある程度のスキルと、1個あたり数時間かかるため、根気が必要な作業となっている。難度の異なる作業ではあるが、どちらも、色の組み合わせを考えたり、仲間と出来映えを評価し合ったり、サイズやデザインのアイディアを出し合ったりと、楽しみながら取り組むことができる。

（3）指導観

- ・生徒が自分で工程を確認しながら作業を進めることができるように、写真付きの工程表を作成して掲示する。紙すきの各工程での仕事を覚えるために、ローテーションですべての役割を体験させつつ、得意不得意に配慮して分担する仕事に軽重を持たせたりしていくことで、有用感や達成感をもたせていく。
- ・生徒が自分から質問や報告ができるように、言葉掛けは最小限にし、声の大きさやタイミング、言葉づかいなどは適宜指導していく。特に材料の受け渡し時や、仕事の依頼の仕方については、相手生徒の特性にも配慮しながら、無理なく適切にかかわることができるような場を設定していく。

主体的に活動するための支援と手立ての工夫
・作業の工程を写真に撮って掲示したり、場面によってはICT機器を活用し、動画に撮って見せたりしながら確認できるよう、準備しておく。 ・一定時間集中して作業に取り組むことができるように、対象生徒が好きな作業を多めに割り当てたり、材料やデザインを自分で選択したりできるようにするなど、教材を工夫して準備する。 ・場の設定では、集中して作業に取り組むことができるように、また、安全を確保するという意味でも、作業スペースや座席、視界に入るものや手の届く場所に置かれてあるものまで配慮する。

4 指導計画 (○本時 本時33/60)

時間	主な学習内容
1～2	・ 昨年のたてとく祭の振り返り、製造・販売する製品、役割分担
3～55	・ 製品作り①
56～58	・ 販売会の準備、リハーサル
59～60	・ たてとく祭販売会の振り返り

5 本時

(1) 本時の全体目標

- ① 道具を適切に使用しながら、手順どおりに製作に取り組むことができる。(知識及び技能)
- ② 仲間に必要な報告や相談をしながら作業をすることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ③ 仲間とコミュニケーションを取り、協力しながら作業に取り組もうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 本時の個別目標

生徒	本時の目標 (対象生徒)
K・M	(1) 手順を覚えて、紙すきの作業に取り組むことができる。(知識及び技能) (2) 自分の作業の進み具合や周囲の状況を見ながら、仲間に報告や相談、作業の依頼をすることができる。(思考力、判断力、表現力等) (3) 仲間と協力しながら、一定時間集中して自分の作業に取り組もうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

(3) 展開

時刻	活動内容	・指導上の留意点	☆主体的に活動するための支援と手立て (本時について)
10:35 10:40	1 始めの会をする。 ・ 始めの挨拶 ・ 出欠確認 ・ 今日の仕事確認	・ 今日の分の日誌を書くよう促す。 ・ ネームカードと今日の作業内容をホワイトボードに記しておく。 ・ 今日行う作業の見通しがもてるように、前回までの作業の進捗状況や次の工程を口頭で確認する。	☆ミキサー掛けや仕上げローラー掛けの仲間とのやり取りを行う中で、返事やお礼などの挨拶や言葉掛けをする機会を多く設定する。
10:45	2 作業準備 ・ 道具の準備 ・ 分担の確認	・ エプロンやキャップを身に付け、ごみや髪の毛の混入を防ぐよう気を付けさせる。	
10:55	3 紙すき作業① ・ 他の係の補助 ・ 紙すき	・ 水くみや布巾しぼりなど、気付いたところから進めていく。 ・ A組生徒とのやりとりは、教師が仲立ちとなっていく。 ・ 上手くできたところは称賛する。	
11:20	4 休憩 ・ 進み具合の確認 ・ 後半の仕事確認 ・ 休憩	・ 紙すきやミキサー掛けの途中の場合は、きりの良いところまで進めてから休憩に入る。 ・ 水分補給、トイレなどを済ませる。 (本時はここまで)	

11:30	5 紙すき作業② ・①と同様	・引き続き集中して行えるように、声掛けをする。	☆全員が行うことで、挨拶や言葉掛けを自然に行えるようにする。 ☆自分から進んで掃除やごみ捨て、道具の片付けに取り組むことができたなら称賛し、意欲付けを図る。
12:00	6 片付け ・道具の片付け ・掃除 ・進み具合の確認 ・午後の作業準備	・途中で退室するA組生徒に、「お疲れ様でした。」の言葉掛けができるように促す。	
12:18	7 挨拶 ・午前の作業終了	・終了までの短い時間に、午後の作業を見越して、できるところまで準備しておく。	
13:30	8 作業開始 ・午後の作業開始	・午後は、午前とは違う内容の作業となる。（紙バンド製品作り）	☆仕事内容によって、作業場所やメンバーを入れ替えるなどし、さまざまな環境に慣れさせていく。
14:00	9 片付け ・道具の片付け ・掃除、ごみ捨て ・材料棚の移動	・自分の座席の周りだけでなく、。周囲も見渡して、パル応の破片や紙バンドの切れ端がないかを確認するようにする。	
14:10	10 反省 ・日誌の記入	・クラフト室へキャスター棚の移動を進んで行えるようにする。	
14:15	・反省会	・反省会では時間の都合上、学年1人の発表としているため、発表のない生徒は仲間の発表を聞き、良かったところは称賛する。	
14:20	11 作業終了の挨拶		

6 単元を通した対象生徒の様子と変容

- ・誰に対しても自分から積極的に関わろうとし、いろいろなことに気が付き、率先して行ったり、仲間に言葉を掛け、進んで手伝ったりするところは、他の生徒にとって良い手本となっていた。集団の中で話したり一緒に活動したりするのがあまり得意でない生徒が、うちとけて言葉を交わしたり、休憩時間に雑談に加わったりできるようになったのも、対象生徒の影響によるところが大きい。良い所を全体場で紹介し、称賛することで、本人の意欲の高まりも見られた。たてとく祭の販売会では、ムードメーカーとしての活躍も見られた。
- ・作業手順が分かりやすいよう、工程ごとに写真を撮って掲示することで、「難しい。できない。」と諦めずに、自分で手順を確認しながら取り組むことができるようになった。また、紙すきの工程を完全分業ではなく、紙をすくところから水分を取るところまでをそれぞれ一人で受け持ち、交代で行うことで、他の生徒の動きを見ながら進めることができるようになった。
- ・いろいろなことに興味をもち、新しいことに挑戦しようという意欲はあるが、飽きっぽく、緻密さが必要な作業を敬遠しがちなので、午前と午後でメニューを変えたり、ストラップ作りなど、比較的簡単で、完成までに時間がかからないものを何個も繰り返し作らせたりすることで、自信を付け、継続して作業に取り組むことができるようになった。さらに、自分で色やサイズ、デザインを自分で選ぶことができるようにすることで、より製品を丁寧に根気強く作ろうとするようにもなってきた。
- ・別の仕事をするときには、ペアの生徒と一緒に集中して取り組むことができるように、座席や向きを工夫することで、担当の仕事に専念することができるようになった。

高等部 1 年グループまとめ	対象生徒：K・M
研究メンバー	板垣由起子、庄司直人、斎藤春季、早坂奏

1 主体的に活動するために行った支援と手立ての工夫 ・飽きずに授業に集中して参加できるように、教師の手伝いや生徒の手助けなどの役割を与えるようにした。 ・生徒への手助けや、休憩時間に適切な距離感で話している場面など、人との関わりが上手くできているところを意識的に見付け、その場で適宜称賛したり、後ほど学習グループ全体で共有して称賛したりして、本人が自信をもてるようにした。 ・飽きずに集中して授業に参加できるように、時間いっぱい一つの活動に取り組むようにするのではなく、多くの活動を用意して、短い時間で区切って様々な活動に取り組めるようにした。 ・活動内容が本人にとって魅力的で夢中になれるものになるように、目的を明確にし、活動に必要感をもたせた。 ・活動内容が本人にとって取り組みたいと思えるものになるように、実態把握を複数の視点から行ったり、既習事項を整理したりして、本人にとって適切な難易度の課題を用意できるようにした。
--



2 対象生徒の学びがどのように変わったか？	
良かった点	課題点
・以前は苦手な活動には、取り組む前から消極的な言動や態度があからさまに出ていたが、徐々に苦手な活動にも取り組もうとする様子が増えてきている。 ・以前よりも長い時間集中して一つの活動に取り組むことができるようになってきている。	・以前よりは集中できる時間は伸びてきているが、依然として集中できる時間はまだ十分とは言えない。 ・授業内外で、先輩や同級生、教員など、人と物理的に適切な距離感をとることや、言葉遣い、声の大きさ、話題など相手や場に応じた関わり方を選択することはまだ難しい。



3 最終年度「主体的に活動する姿」に向け、工夫していきたい点、生かしていきたい点、試してみたい点 ・道徳や保健の時間を使って繰り返し一斉指導をし、適宜学習したことを確認しながら指導していく。 ・褒められることでより意欲的に取り組んだり、良い行動が強化されていったりすることが多いため、良くできているところをたくさん見付け積極的に褒めて、良いところをより伸ばしていく。不適切な行動に関しても、より良い方法を提示して、それができている場面を積極的に称賛することで、適切な行動に置き換えていけるように支援する。それによって本人が自分から取り組みやすい雰囲気を作る。 ・今年度の実践を通して、課題の設定や提示の仕方が本人の学習意欲に大きく影響してくるという実態が見えてきた。課題の難易度は引き続き意識することとして、課題を提示する順番（苦手な活動から得意な活動、あるいは逆）、選択肢のある提示の仕方（本人に取り組む課題を選ばせる）も試していきたい。

1 単元名「リズムを楽しもう」

2 本時の目標（対象生徒）

- （1）4拍を意識して、手拍子をすることができる。（知・技）
- （2）周りの音を聴いて自分のリズムを合わせたり感じたことをプリントに書いたりすることができる。
（思・判・表等）
- （3）仲間と一緒に、楽しみながら取り組もうとする。（学・人等）

3 単元での生徒の実態

対象生徒	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
M・H	・リズムの例を提示すると真似することはできる。 ・リズムを考える活動では、自分のアイデアがなかなか浮かばず、悩むことが多い。 ・練習を繰り返すと、少しずつ自信をもって活動することができる。 ・自分から仲間に声をかけて関わり、協力して活動することができる。	☆音符や休符の長さを意識して、自分なりのリズムを表現する。 ☆仲間と良い点や注意点を伝え合いながらリズム打ちに取り組む。

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

・本単元の導入で、昨年度取り組んだリズム打ちを復習することによって、スムーズに活動を始められるようにする。 ・食べ物や季節をあらわすものなど、日常生活に関連した例を提示することで、自分なりのリズムを考えやすいようにする。 ・ICT機器を操作する場面を設定し、得意分野を生かしながら自信をもって活動できるようにする。また、音符や休符の種類、音の長さなどについて興味をもちながら確認できるようにする。 ・グループによる発表や日時を伝えることによって、目的をもって仲間との話し合いや練習に取り組むことができるようにする。 ・教師による演示によって、発表方法のイメージをもつことができるようにする。 ・グループのメンバー構成を工夫したり、視覚的に学習内容を提示したりすることによって、集中して活動できるようにする。 ・仲間とリズムの種類や順番を考え、色々な組み合わせを試す時間を設定することによって、リズムの違いや重なりなどを楽しめるようにする。 ・グループ練習の様子を撮影・視聴することによって、課題を見出し、次の活動へつなげることができるようにする。 ・考えたり、練習したりする時間を十分確保し、自信をもって活動できるようにする。

5 本時の展開

時間	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
9：40	1 始まりの挨拶 2 活動内容の確認	・本時の流れと注意点について確認する。	☆見通しや目的をもって取り組めるようにホワイトボードに提示する。

9 : 4 5	3 リズム (1) 練習	・できるだけ他のグループの音が気にならないように、練習の場所を工夫する。	☆練習のポイントが分かり、スムーズに開始できるよう、グループの課題について確認することを伝える。 ☆自信をもって発表できるように、繰り返し練習することやシナリオに沿って流れをイメージ化するようにアドバイスをする。
1 0 : 0 0	(2) 発表	・事前に発表の順番や注意点を確認しておく。	☆グループごとに、説明する係やメトロノーム係（スタートボタンを押す）などの役割を決めて、自分たちで進めることができるようにする。
1 0 : 1 5	(3) 感想記入	・生徒の実態に応じたプリントを配布する。 ・時間があれば、感想発表の場面を設ける。	☆感想を書くヒントとして選択肢も準備しておき、必要に応じて提示する。 ☆感想発表では、積極的な発言を促すために、自分自身の感想はもちろん、お互いに認め合ったり、励まし合ったりする場であることを伝える。
1 0 : 3 0	4 終わりの挨拶		

6 単元を通した生徒の様子・変容

- ・あらかじめ、活動内容の流れを提示すると見通しをもって取り組むことができたようだ。
- ・単元当初に設定した自分でリズムを考える活動では、しばらく悩み続けて自信のなさそうな様子がみられた。何度か教師がアドバイスをしても効果はなかったが、選択肢を与えると選ぶことができたので、視覚的な提示が分かりやすく効果的だったと思った。
- ・引き継ぎだったICT機器の操作に関しては、興味関心をもって取り組むだけでなく、メトロノーム係のように役割を与えることで、責任を果たそうという意識の向上につながった。
- ・自己評価をみると、高評価の項目が多く、特に発表については、グループでの表現活動が楽しかった、うまくできたという内容だった。
- ・まとめの時間には、録画したリズム打ちを鑑賞して感想を出し合った。お互いに良かった所を話す中で、対象生徒から「合っていて、きれいだった。」という前向きな言葉を聞くことができた。大勢の中で発言することを苦手とするはずだが、このときの発言から良い意味で変容を感じた。